

2022年度「生涯学習概論」におけるアンケート「公民館ってどんな印象??？」

<p>みなさんの「公民館」の印象を教えてください。</p>	<p>あなたは最近公民館を利用していますか？</p>	<p>上記の質問で、「利用している」という方はどのような用途で利用していますか？</p>	<p>上記の質問で「利用していない」という方は、どうして利用しないのでしょうか？</p>	<p>本日の講義で最も印象的なキーワードを「1つだけ」挙げてください。（講師の言葉でも仲間の言葉でもどこからチョイスしても結構です。）</p>
-------------------------------	----------------------------	--	--	---

<p>いろんなことができそうな場所であるのに、公民館側からの提供というよりもやりたい人が集まって利用しているイメージ</p> <p>お年寄りとママさんバレーしか来ない</p> <p>入ってみると静か</p>	<p>全く利用していない</p>	<p>利用していません</p>	<p>中学生までは地元の友達がメインだったため、地元の友達と一緒に利用していたが、高校生になってからは地元以外の友達がメインとなり、住んでいる地域もそれぞれであるため利用しなくなった</p>	<p>社会教育</p>
<p>お年寄りの方が集まって〇〇教室などをやっている。静かに勉強をしたい時に使う場所。</p>	<p>年1回程度なら利用している</p>	<p>レポートの本を借りるために利用している。</p>	<p>特になし</p>	<p>公民館の特徴</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者が利用してる</li> <li>・ 若者向けでない</li> <li>・ 施設が充実してない</li> </ul>	<p>全く利用して ない</p>		<p>入りづらい</p>	<p>青年の養成</p>
<p>私の中の公民館の印象は、地域の憩いの場だと思う。</p>	<p>全く利用して ない</p>	<p>利用して いない</p>	<p>公民館というところがどういうところだか知らなかったから</p>	<p>公民館は社会教育機関</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の頃まで祖母に連れられて行っていた場所</li> <li>・高齢の方々が集まってお茶会する場所</li> <li>・空いているのか空いていないのか分かりにくい場所</li> </ul>	全く利用していない	利用していない	近くの公民館がどこにあるかが分からないから	情報拠点
複数人で利用する人が多いため一人での利用がしにくい。	全く利用していない		一人での利用がしにくいから。あまり用事がないから。	共に学ぶ

<p>年配の方が利用している  決まった人が決まった時間に  決まったことをしに来る  静かで入りづらい  何が出来る場所なのかよく分  からない</p>	<p>週1レベルで利  用している</p>	<p>勉強、談話、レ  ポート作成時の  図書館利用</p>	<p>学校や部活、アルバイトで行  く時間が無い。高校の友達は  住む場所の範囲が広いため、  あまり地元には集まらない。</p>	<p>共に</p>
<p>地域に密着した周辺の人同士  の関わり合いを持てる場所。</p>	<p>全く利用してい  ない</p>	<p>なし</p>	<p>行く機会がないため。</p>	<p>社会教育士</p>
<p>恒例の方々が使用するイ  メージ  施設が古い。.</p>	<p>全く利用してい  ない</p>	<p>使用していませ  ん</p>	<p>用事がないから。</p>	<p>社会教育法</p>

<p>若者の利用率が少なく、おじいさん、おばあさんが中心に習い事をしているイメージ。</p>	<p>全く利用していない</p>	<p>なし</p>	<p>公民館でやっている講座に興味がないから。</p>	<p>地域を盛り上げる拠点</p>
<p>小学生の低学年の親子、おじ様おば様方の習い事だったり学外活動の場</p>	<p>年1回程度なら利用している</p>	<p>コロナワクチン接種、住民票を取りに行った</p>	<p>用事がないから</p>	<p>e公民館</p>

<p>部屋や体育館を借りる手続きがめんどくさそう</p>	<p>全く利用していない</p>	<p>していない</p>	<p>駅と反対方向にあり、図書館や勉強スペースは学校や駅前で代わりになるものがある。土日は1日にバイトで行く時間が無い。</p>	<p>オンライン公民館</p>
<p>地域の人々が集まって交流する場 学習スペース 住民の憩いの</p>	<p>全く利用していない</p>	<p>なし。</p>	<p>近くにないため</p>	<p>青年</p>
<p>地域住民との交流の場、集まれる場所</p>	<p>全く利用していない</p>	<p>福島に来てからは場所や仕組みが分からないので、未だに利用していない。</p>	<p>仕組みが分からない。</p>	<p>公民館は社会教育の場</p>

講座を開いてる。	年1回程度なら 利用している	本を借りる	利用する目的がないからだ と思う。	公民館
地域住民サークルの練習・活 動の場、図書館や自習室など 学習環境提供の場、といった 印象	月1～2回利用 している	図書館へ本を借 りに行くため。	利用しているため、回答な し。	学習を創造に繋 げる
地域の人交流の場所	月1～2回利用 している	勉強	利用しています。	社会関係資本

<p>若い人が使っているイメージがなく、年齢層が高い人達が使っているイメージがある。</p>	<p>全く利用していない</p>	<p>利用していない</p>	<p>公民館が何をしているのか知らないから。</p>	<p>帰る場所として</p>
<p>イベントがある時にだけ使う場所であり、あまり親しみを感じない。</p>	<p>全く利用していない</p>	<p>なし。</p>	<p>コロナの影響で公民館を使う機会が大幅に減り、常に錠がかかっている状態であるから。</p>	<p>社会教育</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり活気がない</li> <li>・図書館、体育館などの施設は充実している が何故か気軽に入っていける雰囲気がない</li> <li>・若者というよりは高齢者の方が多い</li> </ul>	<p>月1～2回利用している</p>	<p>図書館、体育館の使用</p>	<p>利用はするが面白さを感じないという印象はある。</p>	<p>町村自治振興機関</p>

<p>みんなが集まれる場所 身近にある施設 静か</p>	<p>全く利用して ない</p>	<p>中学校時代ま では利用して いた。</p>	<p>公民館は小学校や中学校で仲 が良かった人と行っていた が、高校で交流が少なくな り、行かなくなってしまっ た。公民館で体を動かした り、本を読んだりして遊ぶ というよりもゲームなどで遊ぶ 人が増え、娯楽の道具が変 わってしまったため。</p>	<p>つながり</p>
<p>年配の方々が集まる ところ。</p>	<p>全く利用して ない</p>	<p>してない。</p>	<p>興味関心が無い。公民館を利 用するより、他の場所で作業 したほうが得ではないかと考 えてるから。</p>	<p>一定区域内の住 民のために</p>
<p>お年寄りと子供が多く若い人 があまりいない。静かな場所 であまり話せる雰囲気ではな い。</p>	<p>全く利用して ない</p>	<p>利用してませ ん。</p>	<p>高校生の頃は勉強のため使っ ていたが、他の勉強している 人がいるため居心地があまり 良くなかったため。</p>	<p>公民館は「地域 にこだわらなく てはならない」</p>

高齢の方が良く行っているイメージがある。	全く利用していない	利用していない	何があるのか、何が出来るのかがよくわからないから	拠点論
公共の場	全く利用していない	利用していない	イベント事が無くなったから	公民館は地域ごとにこだわらなくてはならない
図書館がある 体育館がある 和室や会議室があって団体の人が利用してるイメージ	年1回程度なら利用している	図書館に本を借りに行く、選挙やワクチンが体育館で行われるのでその時に利用する		社会教育

<p>地元の公民館→古い、小さい、何してるのか分からない 今住んでいる地域の公民館→毎日のように何かしている。利用者も職員も多い。すごいなという印象</p>	<p>年1回程度なら利用している</p>	<p>図書館に行く</p>	<p>なし</p>	<p>次世代が公民館に行くには</p>
<p>地区ごとに1つずつあって平屋の造り。基本的には常に施設されていて、地区の集まりや行事(お祭りなど)の時にしか入ることが出来ない。</p>	<p>全く利用していない</p>	<p>利用していない</p>	<p>コロナ禍ということで最近は行事も無くなっているため利用しなくなった。話し合いなどの集まりも大人(親)が行くため小学生以降から利用頻度が下がっていった。</p>	<p>公民館の拠点論</p>

どうしてそのキーワードを選んだのでしょうか。理由を含めながら今回の授業の気づきを書いてください。（「～である調」で書くこと/200文字以上）

まずは社会教育を大切にしていけるべきであると感じる。共に学び合うということは、人とのつながりをつくることができる。もちろん興味のあることを学ぶということも大切であり、学ぶことが生きがいとなることもあるだろう。それに加えて、人とのつながりから生まれる関係や時間も生きがいとなるかもしれない。しかし、誰もが自分一人で、やりたいことを始められるわけではない。だからこそ、社会教育として誰かと一緒に学べる場というのが必要であると考え。社会教育で学んだことや学んだ時間、学びの際に生まれた関係から、次は学ぶ場をつくる側に回るかもしれない。学びやつながりは広げることができる。人とのつながりは価値を生む。まずは、誰かと一緒にということ 키워ドに学んでいければと考える。だからこそ、社会教育は大切であると感じる。

公民館は「一定区域内の住民のため」という地域にこだわらなくてはならない、その地域でしか体験できない何かというように最大の特徴があるが、私が実際に小学校の頃に習い事で通っていた学習センターは、そこでしか出来ない〇〇みたいなものは特になかったと思う。また、家に学習センターではこんなことをこれからやるよみたいなお便りが届くが、とても見づらいなと感じてしまい、手に取って読んでみようとは思うことが出来ない。若い人を惹き付けるにはお便りも工夫することが大切なのではないと考える。

筆者は公民館というと高齢者が利用しているイメージがあり、青年の養成に関心を持つ機関であるべきだということに驚いた。筆者の住む地域の公民館を思い出してみても若者は勉強している中学生が1人、2人いるといった印象である。他の人は駅前にできた設備が充実し、勉強スペースが整っている新しい施設へと足を運んでいる。筆者もその1人である。そうする理由として公民館は暗くて入りづらい、自習スペースが不十分であるなどがある。しかしこれらは目で見たり感じたりした印象であり、公民館でやっている取り組みやイベントをそもそも知らないということがある。授業で聞いた内容を踏まえ、一度公民館へ立ち寄り、自分の地区の公民館がどんなことをしているのか生涯学習を学ぶ1人として見てきたいと考える。

公民館について私は何も知らなくて、公民館という言葉、単語しかしらなかったから、地域にとって大事な場所であることを知ってとても驚いた。公民館を利用したことがある若者は多分あまりいないとは思いますが、私は今回の授業をきっかけに公民館について調べてみようと思ったし、行ってみようかなと思うようになった。社会教育と生涯学習の違いがあまりわかっていなかったが、少しの違いだが違いがわかったから、これからの授業に役立てていきたいと思う。

公民館の印象は上記の例でも挙げたように、高齢の方々がお茶会をする場所として認識していた。そのお茶会では近況報告や世間話をして、情報交換をする場所だという意味で考えていた。筆者がこのキーワードを選んだ理由は、意味的には間違っていないと感ずるのだが、この場合で考えると高齢者同士の声しか聞くことが出来ないということに気がついたからだ。筆者の他にもこのように公民館という場所は高齢者が集まる場所という印象が強い人が多いのではないだろうか。このことから、公民館に来る人の固定化は自然な流れになってしまっていると考えられる。

社会教育の基本理念は、社会に生きる個人同士が共に学ぶことで、自己を高め合い、学びの成果を社会的課題の解決につなげていくというものがある。社会教育の理念と生涯学習の理念の違いとして「共に学ぶ」という点が挙げられる。この「共に学ぶ」ということで得られるメリットとして、自分の学びの幅を広げることができる。自分の考えを誰かに伝え合うことで互いにプラスの刺激を与えることができる。などのプラスの影響を与え合うことができる。共に学ぶということは、自分にとっても相手にとってもプラスの刺激を与えることができるのではないかと思う。

生涯学習と社会教育の違いについての項目ででてきた言葉だが、生涯学習は個人の学び、社会教育は個人同士が共に学んで得た学びが、成長や発展、社会的課題の解決に繋げるということを知り、筆者は社会教育について興味を持った。理念にも書いてある通り、複数人で取り組むことで自己を高め合うことができ、一人ではなし得ないこともできる。公民館は若者が来ない、来たとしてもいつも同じ人、そんな若者が手を取り合って行動することが、これからの社会教育では鍵になるのではないか、という授業をきき、行く機会が毎週ある筆者が、なにか行動してければと思い、いつも一緒に勉強している友人を巻き込んで、行動したい。何をどうするかはまだ未定だが、今までの授業で感じたことを、そのまま行動にしていこうと思う。そう考え、このキーワードを選んだ。

社会教育主事という資格は、実際にその資格を使う仕事現場ではなかなか使われないこともあることを知って驚いた。しかし社会教育士の方は、様々な業種に適用できたりと便利に感じたので資格を取ることを視野に入れてみるのも良いと感じた。

学校を卒業すると新たに何かを学ぶ機会がない。知らず知らずのうちに新しい情報を入れられなくなる。自分の中の情報がアップデートされなくなる。そのため社会教育が大切になると考える。自分以外の意見に触れるだけでも考え方に違いが出てくると考える。交流の場だけでもあることで違いがある。これは孤独死問題にも繋がると考える。

もっと公民館が活発になればサードプレイスになり人と人との繋がりを生むことになる。これによって孤独死が現象するのではないのかと考えた。

公民館とは、地域を盛り上げる拠点出であるべきということを知った。しかし、私の地域の学習センターは若者が寄り付いている姿を見たことが無い。学習センターを、地域を盛り上げる起点にするにはどうすれば良いかを考えたときに、いろいろな案が思いついたため、「地域を盛り上げる拠点」をキーワードに選んだ。

まず、衛生面を何とかするべきであると考え。私の地域の学習センターはとにかくトイレが汚く、私の母親も使いたくないと言っていた。地域を盛り上げる拠点がトイレが汚いなど、あってはならないと思う。また、学習スペースが少ないことも、若者の利用率に影響していると考え。私の地域の学習センターの近くには、高校が多くあるため、学習スペースができれば利用する人も増えるはずだと思う。若者が直接足を運ぶ機会を作り、イベントの情報も知ってもらえば活気に満ちたのではないだろうか。

公民館はそもそも一定の区域内の住民のための生涯学習の場であるのに対して近年、新型コロナウイルス感染症の影響で外に出歩くことができなくなった時に「地域の住民」という固定概念を取り崩したインターネットの公民館「e公民館」というのが出来たというのを知り、公民館を残していくのならば「地域の住民」というキーワードを無くしても良いのではないかと考える。地域の住民だと少子高齢化などで公民館に通う人が限られてしまい、常連さんみたいに来る人が変わらないという現象になるのではないかと考える。だからといって解決策をすぐに出せる訳でもないで、どうしたら若い人たちが公民館に行くようになるかというのを考えて行きたいと思う。

私がこのキーワードを選んだ理由は固定概念に囚われていれば、この発想はできなかったのではないかと考えるからである。本来、公民館が一定区域内にこだわらなければいけないものだと考えているとどうしても対面の限定的なプロジェクト案ばかり浮かんでしまう。しかし、一定区域内と定められたのは、勿論だがコロナがまだない時代である。時代と共に常識は変わっていく。それに伴い、私たちも考えを更新していかなければならない。更新できないものは淘汰されていくだろう。今の自分の言動は無意識に固定概念に囚われたものではないか、一度立ち止まって再確認することが大事だと考え、このキーワードを選ぶことにする。

公民館は住民同士が集まる場所でもあり、帰る場所でもある。しかし、近年は若者離れが課題となっている。その理由としては、時間がない、近寄りがたいイメージがあるからだと思う。青年がくるためには、学生向けのイベントなどを行えるば集まると感じる。また、駅前など人が集まる場所にあるとよりいいと思う。

これは、言われてみないと分からないことだと感じたからである。地元では、いつものことのようにボランティアやスポーツ少年団をやっている人は大半を占めている。言われてみなければ、気づけないこと。生涯学習概論を学んでいる限り、この「少しの気づき」をどう自身も忘れずに伝えていくべきか考えようと思う。社会教育が重要視される中で、大人の社会教育をこの公民館でどう作りどう参加を促すか考えてみたいと思えた。私のおじいちゃんおばあちゃんが生涯学習に興味を持っているからでもある。

公民館は、社会教育機関として重要な場所であり、社会教育法にも公民館が法的に位置づけされているから。また、社会教育機関以外にも社会娯楽機関でもあり町村自治振興の機関でもあり産業振興の機関でもあり青年の養成に最も関心を持つ機関だということを学んだ。しかし、町村自治振興の機関としては弱いと考える。家の近くにある公民館に実際に行って現状を把握し公民館が地域を盛り上げる拠点となるようにはどうすればいいかを考えたい。また、コロナ禍によってe公民館やおうち公民館というような取り組みがあるということを知った。時代に合わせて変わっていくということも求められると思う。

私たちは、授業を受ける時、学んだことを知識として頭に入れることをメインとして考えている。それについて考えたり、身近な人に教えたりすることはあっても、そこから新しい講座・講義をつくり出すなど、創造的行動にまで結び付けることはなかなかないと言える。そうした自身の学習経験における実感があったため、今回のキーワードを選んだ。今回の授業では、そういった今までの学習から、一歩踏み出すことの重要性に気づいた。

このキーワードから、公民館の根本的な存在理由が理解出来たからだ。社会関係資本とは、すなわち「社会、地域における人々の信頼関係や、結びつき」のことである。ここで、寺中五大構想の内容が関わる。「公民館は、社会教育・社会娯楽・町村自治振興・産業振興・新しい世代の処すべき青年の養成に最も関心を持つ機関である。」公民館の役割を見てみると、どれも、それらの機関として成り立つためには、信頼関係と結びつきが大事だと感じた。

私は公民館が帰る場所として機能していくということは、地域のサードプレイスになることができるのではないかと考える。公民館がサードプレイスになることで地域のコミュニティが活性化し、人との関わりが増えだけでなく生涯学習で自身の生きがいを見つけることができる。また、リラックスができる場所になることで心の安定にも繋がり、前向きに行動できるようになると考える。公民館の利用は年齢層が高いイメージがあるため、公民館がサードプレイスになることで若者と高齢者の繋がりも生まれ新たな刺激になると考えるため、私はこのキーワードを選択した。

社会教育の理念は、桜の聖母短期大学での授業の仕方と共通する部分があるなと気づき、この言葉が印象に残ったため、キーワードを選ぶ。一年生前期の地域形成論では授業で得た知識をもとに、地域的課題の解決のために出来ることをグループで考えた。私は三瓶先生の授業を通して、社会教育はどういうことなのか経験することが出来るのではないかと考える。短大での学びを通して、社会に出た時には、自分一人で考えて行動するのではなく、他者との関わり合いがいかにか大事なのか学ぶ。

公民館が自治振興機関であるというのを初めて知った。そこで疑問に思ったのは、公民館は自治振興をできているのかという点だ。公民館において一番の課題はもっと活発化することだと思う。偏見になるが、福島県人は積極性に欠けるところがあると感じる。なにか新しいことをする時にもなかなか動きを見せないのが、本当にやる気があるのだろうかと思い信頼できない。公民館は自治振興機関であるならば、まず働き手に明るさや活発さが求められると感じる。その後で、色々な意見を出し合って自治振興に繋げていくのが大切だ。以上の理由からこのキーワードを選んだ。

地元の公民館を調べてみたところ、コロナウイルスの影響で臨時営業していたが、さいたま市のようにインターネットを使用し、活動はしていなかった。

さいたま市は、さいたま市公民館ビジョンというものを立てており、「つながり」というものを大切にしていた。

さいたま市のように「つながり」を大切にすることによって、町村自治復興や産業復興に役立てることができるのではないかと考える。

さいたま市のようにするのは難しいとしても、直接公民館に予約しに行くのではなく、インターネットで予約できるようになると便利になり、人が増えることにつながるのではなかと考える。

公民館の最大の特徴が私には、最初全く知らなかったのだ。誰にも利用できることが最大の特徴だと思っていたが、一定の地域の住民という言葉がとてもしっくりくる。公民館は住民のために様々な活動をしているが、特定の人のみが利用している。そのため、一部分の住民のみしか訪問せず、公民館の良さがあまりにも発揮できてないことがわかる。このことを知って、生涯学習概論を受けている学生にとって関わりのある、大きな問題であることがわかる。自分自身での問題もある。自分があまりにも公民館を利用しておらず、得ることができたことを今まで損していたのだと思うと悲しくなる。月に1回は、公民館に行ってみてもいいかと考える。

コロナになってからインターネットでの活動をする公民館もでき、若者にも利用してもらうための戦略としてもインターネットの使用が進められる中で、公民館での最大の特徴である地域にこだわるという要素がなくなってしまうという点がとても印象的だったためである。公民館は地域のことを知るための情報機関というだけでなく、地域活性にも力を入れなくてはいけないため、インターネットを使い地域の情報を拡散することによって、その地域を知ってもらい観光客や移住する人を増やすといったこともできるのではないかと気づいた。

今までは「公民館ってどんな施設？」って聞かれても答えられないだろう。だが、今回の講義を聞いて、「公民館とは情報の拠点だったり、声を大切にする施設で、学部・講座事業で関心のあることを語る場所」だということが分かった。また、「帰る場所または居場所の一つ」になることが分かった。地元の公民館は高齢の方だったり、赤ちゃんとその親だったりほとんどで若い人はほとんどいない。気軽に立ち寄る事の出来る公民館作りはとても大切だと考える。

私の町の公民館は少し広い空間が一室あり畳の部屋が一室あるだけで、コロナ禍になってから教室などもほとんど開いてるわけではない。そのため、私たちの年代に限らず、予想だと最近はほとんどの人が公民館に足を運んでいないと考える。それは、隣町の須賀川の公民館の方が栄えてるしなどと考えると鏡石町には集まってこない。コロナ禍が少し落ち着いたなら鏡石にしかない講座を開いたりすればもう少し人が足を運んでくれるのではないかと考える。

社会教育という言葉自体を初めて聞いた。学校教育の一部だと思っていたボランティア活動が、社会教育に含まれるのだと学んだ。そして、公民館が社会教育に重要な役割にいるのだと感じた。しかし実際には、公民館は本来の機能を十分に果たしていないように思える。公民館は個人が集まり、共に学べ合える場所でなくてはならない。そのためには、公民館の在り方を見直す必要があると思う。

自分も「自分を含めて、なぜ次世代の人達は公民館に行かないのか」が気になったからである。自分が公民館を利用しないのは、「公民館でなくても勉強できるから」「スタバのようにオシャレで行きたい！と思うような場所だとは思わないから」「公民館は地域の人達が集まってサークルや講座を行う場所であり、学生が勉強するための場所はないと思うから」である。今住んでいる地域の公民館は、大きい施設であるため勉強する環境はあるかもしれないが、地元の公民館はかなり小さく、そのようなスペースは全く無かったため、使うことが無かった。小学生のときに子供会の集まりで使ったきりである。ホームページやチラシなどで「学生が使えます」ということを教えてくれれば公民館を利用すると思う。

公民館という場所の拠点意義は、学びの場としてはもちろん、子どもから大人までが帰ることができる場所である。これは、地域形成論で学んだ孤立社会を生まないことにつながるだろう。自分の居場所がない人や家にいても落ち着けかないという人には、私の地域ではコミュニティセンターがその役割を果たすと考える。子どもたちは勉強をしながら体を動かして遊ぶ場として活用し、大人は軽い運動を行ったり、イベントや講座に参加して生涯学習をしながら、人と触れ合い孤立しない社会につなげられるからである。

今回の学びは、他の科目・他の場面のどのような体験・経験・知識を関連付けられますか。具体的な理由も書きましょう。（「～である調」で書くこと/200文字以上）

地域形成論でも学んだように、人とのつながりがどんどん薄れている。関係性も固定化している。このことから、公民館の「つなぐしかけ工場」という点をもっと強めていくべきであると感じる。現代社会での関係性の固定化や人とのつながりが少ないことから、固まった考え方や創造的コミュニケーションの阻害へにつながっているだろう。そんな今だから、公民館でつながりをつくるしかけがどれだけ出来るかが鍵となるだろう。また、公民館はつながりから生きがいをつくることの出来る場でもある。今や一つの公民館だけで頑張る時代でもない。公民館同士や違う団体などをつながりをつくり、コミュニティを創造させていくのである。公民館が自分たちのつながりを広げて、そこから住民、地域のためのつながりをつくる機会を提供すべきである。つなぐしかけ工場になるために、まずは公民館がつながりをつくらなくてはならないかもしれない。人とのつながりをつくる「のり役」として動ける公民館が必要になっているのではないか。つながりをつくるために、どんなしかけをつくることができるのかを考えるべきである。それらが、人との関係性はもちろん地域としても活性化につながると考える。

今回の学びでもう一度筆者の住んでる地域を見直し、また筆者が住んでいる地域の課題を見つめることができると思う。筆者の住んでいる地域では何が体験できて、どういう経験を積むことができるのか。それを理解することがレポートを書くことに繋がると考える。また、福祉学のボランティアで福島市のすずらんフェスタというイベントのボランティアに参加するため地域ではなく私が住んでる福島市は何を売りとしているのか、そこに住むことでどんなことが得られるのかを学んでいきたいと考える。

筆者は小学生の頃、公民館で開かれる生け花教室に通っていた。同世代の人が沢山いたため社会教育の理念である、個人同士が共に学ぶというところまではできていたと思う。しかしそこで終わってしまっていた。授業内でも終わってからも他の人と会話することなく、自己の高め合いやコミュニティの形成はできていなかった。現在、その生け花教室に通っていた人との関わりは全くない。幼かったというのもあるが、あの時もしも交流を深めていたら現在より交流関係が広がっていたのではないだろうかと思う。

今回の授業で、社会教育主事や社会教育士について学び、これらの単語を初めて聞いたが、教育委員会の専門的職員で社会教育を行う者に対する指導をする役割だということを知り、指導するという事は、社会教育についての知識がある人しかできないと思うし、私には縁のないことだと感じた。社会教育についてもっと多くのことを学び、これから生きていく人生で生涯学習を続けられるような人間になりたいと感じる。

筆者は小学生の頃に学校の隣にある児童館に通っていた。この児童館では高齢者の方々が月に1回程度の頻度で昔遊びを教えに来て下さり、一緒にけん玉や駒回しなどをして遊んだ。今考えてみると、児童館での遊びはドッチボールや縄跳びなどがほとんどだったため、このような機会がなければ昔遊びに触れる機会がなかっただろうと思う。最近、筆者はボランティア団体のメンバーに加入した。この活動では、無料塾で小学生に勉強を教えたり、一緒に遊んだりして、形的には多くの子供がいる場所に訪問する。これは、筆者が小学生の頃に昔遊びを教えて下さった高齢者の方々の立場に位置づけられる。したがって、今までは受け身側だったものが、自発的に動かなければいけないということになる。そのため、公民館の拠点論の3つ目にあるつなぐしかけ工場の考え方に基づいて、新しいネットワークをつくり、新しい活動を発見するきっかけとなるような意味のあるボランティア活動にしたい。

私たちは普段の学校生活においてこの「共に学ぶ」ということを行っている。特にグループワークやプレゼンテーションなどが例として挙げられる。グループワークやプレゼンテーションでは、同じメンバーの人とともに同じ課題に向かって取り組むためその中で互いの意見を聞くという機会が多くある。その際に、自分以外の人意見を聞くことで、今まで自分になかった意見・考えを知ることができる。さらに、そこから自分の視野を広げることに繋げることができるのではないかと思う。

筆者が今通っている大学も社会教育、ボランティア活動も社会教育、ということを知り、その自覚を持って行動していきたい。言葉にするのは難しいが、受け身の授業というより、皆と協力して成果物を出すことに力を入れたり、掲示板にあるボランティアに積極的に参加し、他人との関わりを持つようにしたい。ミリアムRACクラブというボランティアサークルに所属しているが、ボランティアの呼び掛けが多くはないため、自ら見つける行動力が必要である。福祉学の授業の一環で、ボランティアをすることになっているが、その前に行ったボランティアは学校が始まった直後のため、ボランティアをする、したい、と言っているだけで全く行動にできていなかった。このボランティアを機に、様々なボランティアに参加し、複数人でなにかをすることの良さや効果を体験し、これからの活動に、自ら立ち上げるかもしれないなにかに生かしたい。

公民館を立てられた当初と同じ目的で利用することが減っていると知り、自分たちで実際に必要な講義を出す課題が楽しみになった。興味関心を広げておきたい。

授業によって今までの公民館の印象がガラリと変わった。今までは公民館の役割など考えてなかったため、公民館の存在意義を学ぶことでどのように公民館を利用すべきか理解出来た。公民館はあるだけのモノだったが授業によってどのように利用すべきか認識できたことで、周りに公民館を売り出すことができると考えた。

公民館の職員が高齢の方が多きことは公民館から人が遠のく一因であると考えた。公民館はしっかりとした役割があることを若い世代でもっと売り出せばもっと活発になると考えた。

今回の学びは、街づくりと関連付けることができると考える。その理由は、学習センターは地域を盛り上げる拠点であり、地域を活気に満ちさせることが街づくりにも影響すると考えるからである。

学習センターという場を使うことで、地域の人たちと関わる機会が増え、人とのコミュニティの場ができる。これを高齢者の人たちだけでなく、若者も巻き込むことで地域全体の活性化につながると考える。そのためには、イベントの内容やポスターのデザインを若者向けに変え、学習センターの取り組みを発信していかなければならないと考える。

どうやったら人が来るようになるかという点で就職などで使えるマーケティングの能力を鍛えられるのではないかと考える。今回は公民館にスポットライトを当てているが、他にも昔からあるのに対して特に若い人たちが行く機会がない施設などは沢山あるのではないかと思う。

そのような施設を残すためにも若い人たちが行きたくなるようなイベントを考えてみたり、そもそも公民館などの若い人たちが行かないような施設は施設自体がボロボロだったりするのでお金はかかってしまうが建て直して人が集まれる環境作りをしていくというように大まかではあるが企画していってみるとマーケティングの能力を上げられるのではないかと考える。

この学びは委員会に活かされるのではないかと考える。10月以降徐々に代替わりを行っているが、今までの活動を通して不満点がいくつか挙げられてきた。組織で動く以上大幅な方向転換を行うのは尻込みしてしまいがちだが、そこで変わらなければいつまでも不満点は残り続けるだろう。今までの固定化されたパターンを変えるということは、周りの人間も巻き込んでしまうことにはなるが、そこで固定概念に囚われず能動的に動けたものたちが生き残れるような中になりつつあると筆者は考える。

#### 福祉学

現在、ボランティア活動をしているが、これも公民館と同じく社会教育の一環だと分かった。私が行う活動は直接人とは関わることはないが、少しでも地域課題の解決に貢献していきたいと感じる。理由として、社会教育の中にある共に学ぶということが福祉学と共通点があると感じたからだ。

私は最初にできることとして、福島市にある公民館を知る。またどのような仕組みで行けるのか、理解をする。そこから自身で勉強をしに行き、どのような感じなのかを知るところから始めようと思う。知らないからこそその行動をしていきたいと思う。この福島に上京するまでは、地元の公民館をほぼ毎日通っていた。何をやるかは行ってから決めていた。土日に行けば、おじいちゃんおばあちゃんが来ていたので一緒にクロスワードをやっていたりしていたことがある。そこまでは行けなくても、公民館を利用したことをやってみたいと思う。

今回の授業でつながりをつくる生涯学習の大切さを学んだ。地域形成論の授業で学んだ地域とのつながりの大切さと結びつけることができると思った。東京にある大山団地では入居者4000人という典型的なマンモス団地なのだが、10年以上にわたって「孤独死ゼロ」を実現しているというのがすごいと思った。地域とのつながりが希薄化しているという今だからこそ地域とのつながりをつくるということが大切でありその手段の一つとして公民館が大事だと考えた。だから最近公民館をあまり利用していないが利用してみようと思った。

前期の地域形成論における知識と関連付けられると考える。地域形成論も一つの授業であり、授業内で話をしっかり聞いて知識を得ることはもちろん大切である。しかし、地域を活性化するための取り組みなどの知識をせっかく得ても、「知った」だけではもったいないし、次に繋げることはできない。得た知識をもとに行動してみたり、実践できなくても、広めるために、次の誰かに伝えることに挑戦するなど、創造的な学習をできるようにすべきだと考える。だからこそ、地域形成論の知識と関連付けられると考えた。

今回の授業から、公民館というのは、地域に根付いた憩いの場所、だけではなく、社会教育・産業振興・新しい世代の養成という一面があることを知った。ここから、地域形成論で学んだ、「横の繋がり」の重要性に結びつくと感じた。何故なら、公民館での学びから、学校や職場とは違った、同じ思考で、同じ目的について考える仲間が増え、それが横の繋がりなのではないかと感じたからだ。縦だけではなく、横の幅広い交流関係を築く場所、それも公民館の一面なのではないか。

私は今回の学びをレポートの調査の参考にしていきたい。私の住んでいる米沢市は、コミュニティセンターが多くあり、公民館が少ないためほとんど行ったことがない。そのため公民館は私にとって身近な施設ではないが、私の住んでいる地域の公民館は寺中作雄さんが目指した公民館像と一致しているのか、拠点論で挙げられたようなことが取り組みとして行われているのかを調査していきたい。また、個人的に社会教育士に興味があり、どのようなことをしているのかを調べていきたい。

本日の学びを、福祉学のボランティアの活動と関連付ける。なぜなら、福祉学での、学生の全員がボランティアの活動理念と実践意義を学んだうえで、社会的課題の解決に向けて自分ができることを考え、実践するという活動が、社会教育の基本理念と類似しているからだ。共に学ぶために、ボランティアを通して得た気づきや学びを、他者と意見交換することが大事だと思う。そうすることによって、自分では得られなかった気づきを得られるだけでなく、他者とも繋がれる機会があることで、社会教育に必要な協調性が磨かれると思うからだ。

今回は公民館についての話だったが、正直公民館だけでなく様々な企業・施設などでも積極性に欠けるという欠点があると感じる。普段何気なく行っている学校やアルバイト先、スーパーなど課題を見つめるという目線でこれから行ってみようと思う。そこで見つけた欠点は伸びしろがあるものだと思うので、解決策を考え明るく親しみやすい社会に貢献出来る人材になりたい。

地元の公民館について調べ、地元の地域ならではのことをやっているのか見極めたいと考える。そのことについて福島市の公民館との違いも見比べることによって、新たな発見ができるのではないかと考える。

今回は公民館の発展という視点で考えていたが、別のことの発展を考えるときにはそれが一番発展している国や県を参考にして考えるということはとても大切だ。

そのため、インスピレーションが湧くためにも様々な場面で参考にすることを大前提にしたいと考える。

公民館は、全くといっても過言ではないほど行ってない。そもそも、公民館で行えることはイメージで決めつけていて足を運ばない。イメージというと、小さな図書館で本が十分でないことやあまり面白くないことを行っているなどと勝手に想像していたのだ。しかし、この講義を受けてから公民館の良さを知るようになった。公民館は様々な機能が備わっており、是非利用してみようと思った。今は、公民館での利用体験が全くないためこれから公民館で何か体験していきたい。

社会教育とグループワークを関連付けることが出来ると考える。社会教育は2人以上の人が関わって社会的課題の解決につなげるという点と、グループワークの2人以上の人が関わって何かしらの課題解決につなげるという点が一致するからである。どちらも一人ではできないことであり、全員が課題を知っていないとできないことである。だからこそ、地域の課題解決のためには地域の人が課題を把握し自分事に考えることが必要なのだと学んだ。

私は将来、図書館司書になりたいと考えている。公民館内にも図書の貸し出しや閲覧が出来る図書室があるが、知らない人も一定数いるだろう。私も改めて地元の公民館について調べて見た。一応視聴覚室という部屋はあったが、そこで読書をしたり、自習したり出来るような感じではなさそうだ。今回の講義は図書館関係の講義やプランニング入門にも応用出来ると思う。また、生涯学習概論の第一回目でもらった生涯学習センターの講座のチラシを活用していきたい。

他の市や町の公民館の様子を聞くと、他の公民館はよく教室が開かれていたり本が置かれていたり勉強スペースができていたりと利用しやすいような空間できていると気づき、鏡石町には全くその空間がないため、役場に行き鏡石町の公民館を栄え、もっと人が簡単に来れるような町づくりに協力しようと思う、また、コロナ禍も少し落ち着いてる今に町で開かれている教室に参加してみたいと思う。

今回の授業では社会教育について学んだ。この学びは福祉学にも関連付けることができる。福祉学ではボランティア精神について学んでいる。福祉学は学校教育でもあり、社会教育でもあると思う。ボランティア活動を通して他者と関わり合い、自己を高め、更には地域の課題も発見することができる。社会教育と生涯学習は密接している。私も積極的にボランティア活動に参加し、学びを深めたい

今回の授業の「利用者のちょっとした一言が有効」というお話が、高校のときにあった目安箱の経験と繋がると考える。確かに紙などに要望などを書いてもらうのも良いのだが、口頭でふと思ったことをポロッと言ってもらえるのもかなり良い。高校のとき、目安箱があったのだが、書いてる人はいなかった。人通りの多いところに置くのも良いが、人目を気にして書けなかったのだと思う。私もその1人である。また、先生に意見を言っても反映されることが無かったため、目安箱に書いても同じだろうと考えたのだと思う。目安箱も良いが、口頭で伝えたときの方が「聞いてもらった」感があり、それだけで満足することもあるため、利用者のちょっとした一言にも耳を傾けることが必要だと考える。

公民館やコミュニティセンターに、初めて行くとしたら利用しづらいだろう。なぜなら、ほとんど強制的に人と接することになるからである。そのため、初めてであれば図書館の利用をおすすめする。図書館では、利用者は本にしか興味がないため、周りの人にあまり関心を持っていない。最初は1人でも少しずつ図書館職員の方と会話をし、そこからコミュニティセンターで行っているような、企画に参加していくのがいいだろう。人と全く接しないのは孤立社会につながってしまうため、図書館から少しずつ慣れていくことが重要である。